SAFETYSAFETY

街の
電気安全カルテ

電気安全PRキャンペーン

- ●春期公衆感電事故防止PR　3月～5月
- ●電気使用安全月間　8月
- ●冬期公衆感電事故防止PR　12月～2月

電気安全九州委員会
九州電力送配電株式会社

家庭の
電気安全カルテ

電気安全PRキャンペーン

- ●春期公衆感電事故防止PR　3月～5月
- ●電気使用安全月間　8月
- ●冬期公衆感電事故防止PR　12月～2月

電気安全九州委員会
九州電力送配電株式会社

作業時のチェックポイント!

こんなとき感電事故が起きています。

九電送配サービス(QSS)

建設工事の現場で電線に接近して作業を行う場合、適切な予防措置や注意をしなかったために感電事故が起こることがあります。作業を行う前には養生ネットを張ったり、電線に絶縁用の防護管を取り付けるなど、裸電線、被覆電線に関係なく、適切な予防措置が必要です。作業開始の前に付近の状況をよく確認し、早めに九電送配サービス(QSS)へご相談ください。

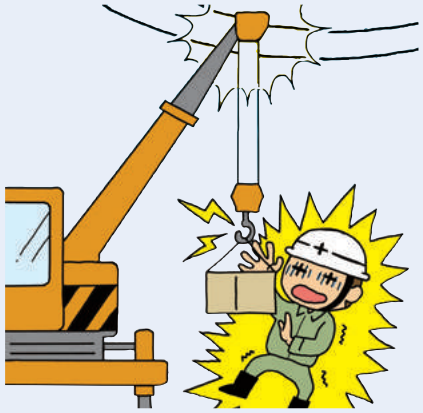
[防護管取り付けには15営業日程度かかりますので、お早めにQSSへWEBにて、お申し込みください。
またビル工事などの場合は、安全管理責任者の方が建設現場図面を持って、ご相談ください。]

組み立て作業中

建設現場の足場組み立て作業時に、鉄パイプが高圧線に接触する事故。

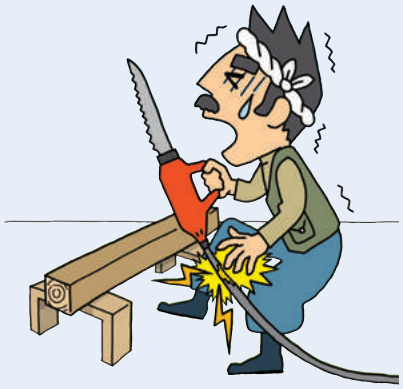
クレーン作業中

建設現場などでクレーンを使用する場合に、クレーンのブームやワイヤーが高圧線に接触する事故。



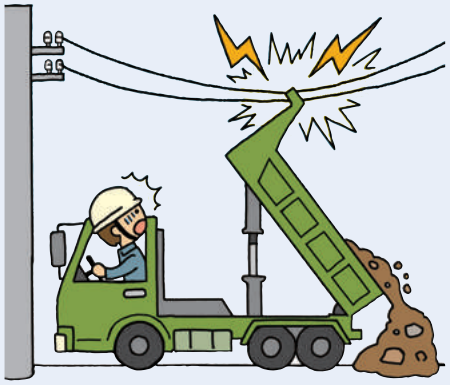
大工作業中

電気ノコや電気カンナなどの電動工具のコード損傷部に触れて起こる事故。
屋外で電動工具を使用される場合は、漏電遮断機の取り付けが必要です。



ダンプ作業中

ダンプカーで荷台の上げ下ろしの作業を行う場合に、高圧線に接触する事故。



看板塗装作業中

看板などの塗装作業を行う場合に、高圧線に接触する事故。

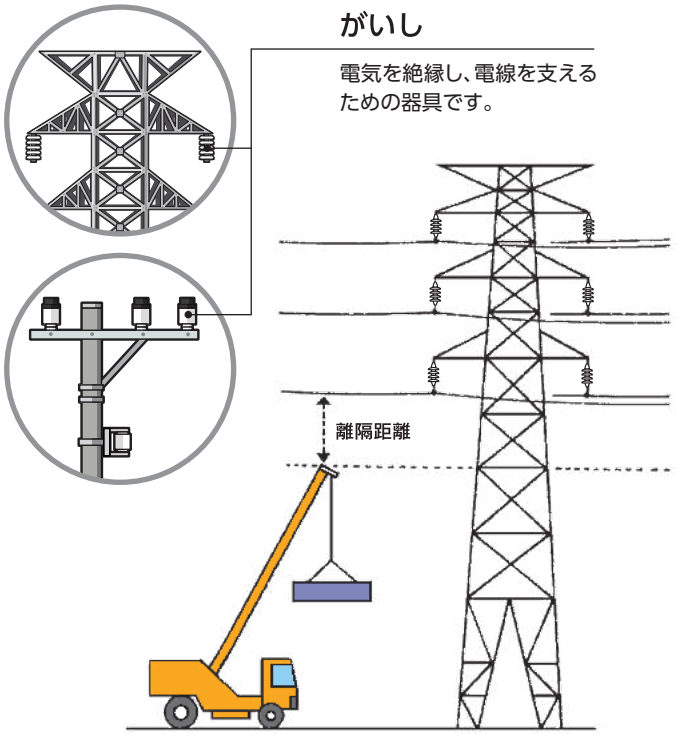
伐採・剪定作業中

木の枝を伐採・剪定する際に、高圧線に接触する事故。

知っておきたい、作業時の［電気の知識］

送電線に近づくと危険です！

送電線は電圧が非常に高いため（２万ボルト～50万ボルト）、**電線に直接触れなくても感電することがあります。**このため、電線との離隔距離は、電圧が高くなるほど多くとる必要があります。送電線の近くで作業を行う場合は、軽微な作業でも必ず事前に九州電力送配電へご連絡ください。



送電線から離すべき距離（離隔距離）

電　圧	がいし個数	離隔距離
22,000ボルト以下	2～4個／ヵ所	4m
66,000ボルト	4～6個／ヵ所	
110,000ボルト	7～9個／ヵ所	
220,000ボルト	14～18個／ヵ所	6m
500,000ボルト	29～52個／ヵ所	11m

知っておきたい、暮らしの中の［電気の知識］

漏電遮断器を取り付けましょう！

電気は目に見えず、匂いもないため、もし配線や家電製品の故障で漏電していると、知らずに触れて感電したり、火災の原因になります。漏電遮断器を取り付けていれば、万一漏電しても、瞬時に電気を切って、事故を未然に防いでくれます。単相３線式配線の場合、単３中性線欠相保護機能付の漏電遮断器の取り付けが義務づけられています。

取り付けが義務づけられているもの

次のいずれかに該当する場合には、漏電遮断器を取り付けることが義務づけられています。

- 水気のある場所に電気機器を設置する場合。
- 浴用に使用する電気温水器を設置する場合。
- 屋外や建物のそばにコンセントを設置する場合。
  植物栽培などのために、電気温床や電気加湿装置などを設置する場合。
- プール、噴水、池などに給排水ポンプ、循環ろ過ポンプなどの電動機設備を設置する場合。
- 対地電圧150V以上の電気機器（大型ルームエアコンなど）を設置する場合。
- 電動機のある電気機器を雨にぬれる場所に設置する場合。

次のいずれかに該当する場合には、漏電遮断器を取り付けると安心です。

取り付けが望ましいもの

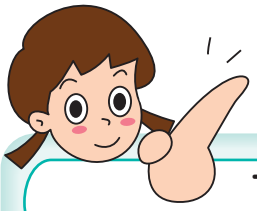
- 湿気のある場所に電気機器を設置する場合。
- 洗濯機、脱水機、食器洗い機及び庭園灯などを使用する場合。
- 屋外に電気機器を設置する場合。
- メタルラス張り、ワイヤラス張り、金属板張りの壁のある建物に電路を施設する場合。

お取り付けは、電気工事店へご相談ください。

毎日の安全チェックポイント!

ご家庭の電気を安全にお使いいただくためにチェック!

九州電気保安協会



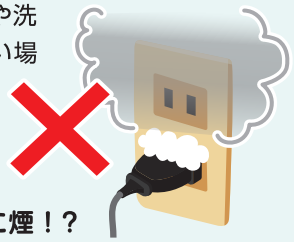
新しく家電製品を買ったときには、使うまえに取扱説明書を読んで、安全な使い方を確認しましょう。また、電気と上手に長く付き合うために、身の周りを定期的にチェックしましょう。意外と簡単にチェックできます。

プラグにたまったホコリをチェック!

～トラッキング現象にご注意!～

プラグとコンセントの隙間にたまったホコリが湿気を帯びると、火花が出ます。これを長い時間放っておくと、プラグ間に電気が流れ発熱し、発火する「トラッキング現象」が起こります。

この場合は、家電製品を使用していなくても通電状態であれば、いつでも出火する可能性があります。長時間コンセントを入れたままにする冷蔵庫、テレビやビデオ、パソコンに起こりやすく、キッチンや洗面所など湿気の多い場所も要注意です。

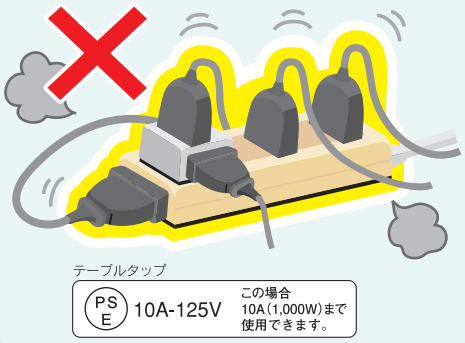


火のないところに煙!?
トラッキング現象を防ぐポイント

- 長時間差し込んだまま使っているプラグは、ときどき抜き、乾いた布でホコリを拭き取りましょう。
- プラグが変色・変形していたら取替えましょう。
- 使用しない家電製品は、コンセントから取り外しましょう。

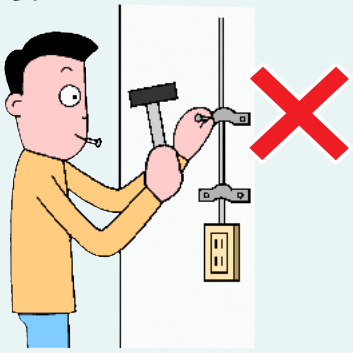
タコ足配線に要注意!

テーブルタップから、いくつもの家電製品、を使っていませんか。コンセントやコードは流せる電気の量が決められています。それを超えて一度にたくさんの家電製品を使うと、過熱して危険です。



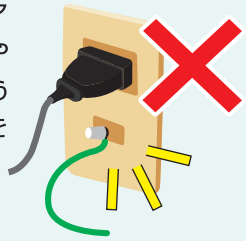
配線工事は工事店へ!

素人がコンセントを増やす工事などをすると、漏電や感電事故につながるおそれがあります。屋内配線工事は「電気工事士」の資格のある工事店に依頼しましょう。



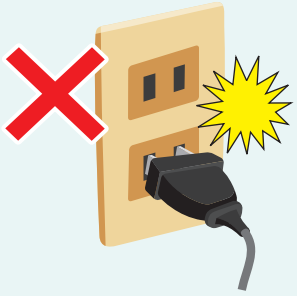
漏電防止のアースをチェック!

アースは、万一漏電したとき、電気を大地に逃がす通り道です。アースを取り付けると感電の危険を少なくすることができます。洗濯機、衣類乾燥機、電子レンジ、エアコン、冷蔵庫など、湿気や水気のある場所で使う家電製品には、アースを取り付けましょう。



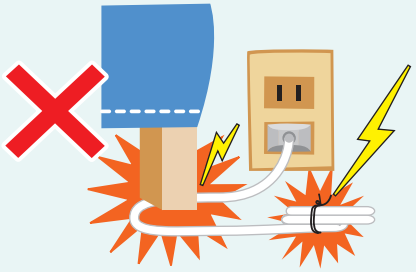
プラグの差し込みをチェック!

プラグの刃をきちんと差し込まないと熱をもったりします。こわれたプラグやコンセントは感電やショートの原因になるので、取り替えましょう。また、アイロンやドライヤーなど熱をもつ器具の使用後は、スイッチを切るだけでなくプラグも抜きましょう。



電気コードをチェック!

コードが家具などの下敷きになったり、束ねたままになったりしていると、コード内の電線が切断されてしまうことがあります。電気の通り道が狭くなり、異常な発熱を起こすことがあるので、注意しましょう。古い延長コードは、取り替えるのも安全対策です。



災害時のチェックポイント!

台風や地震、集中豪雨等が発生したときの注意点

九州電力送配電

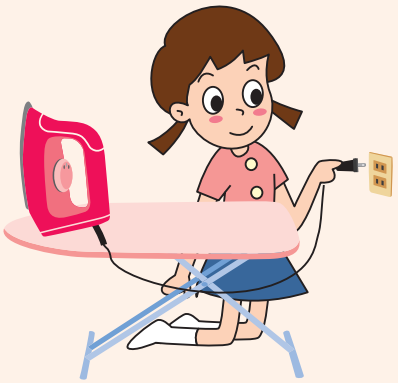
私たちは様々な家電製品に囲まれて暮らしています。いつ、どんなところで災害に襲われても被害を最小限に食い止めることができるよう、次のことに注意しましょう。

平常時、家庭の電気安全ポイント

地震のときは、電気ストーブの転倒、オーブントースターの落下などのおそれがあることから、家電製品は置き場所などに十分注意するとともに、近くに可燃物をおかないようにしましょう。

二次災害を防ぐために

台風や地震などのときは、家電製品のスイッチを切りましょう。とくにアイロンやドライヤーなどの熱器具はすぐにプラグをコンセントから抜きましょう。

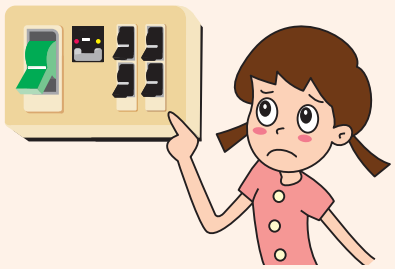


再び電気をお使いになるときは

家電製品や屋内配線の安全確認を行いましょう。傷ついたコード、破損したコンセントや落下した家電製品は漏電などの原因になります。また、水にぬれてしまったものも同様です。電器店のチェックを受けましょう。

避難するときはここに注意!

台風や地震などのときも、設備に異常がなければ電気はご家庭に送られています。電気の消し忘れによる事故を防ぐためにも、避難するときにはリミッターやブレーカーなどを必ず切りましょう。

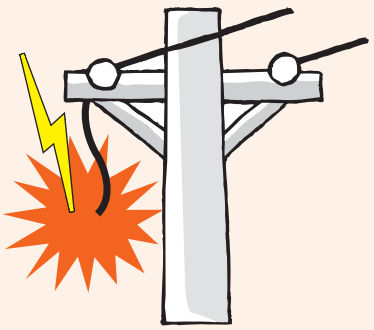


ガス漏れがあるときは

ガス漏れのあるときは、家電製品を使用しないようにしましょう。ガスの臭いがするときなどは電気の使用を避け、ガス栓をしめ、窓を開けて、ガス会社へご連絡ください。

切れた電線に注意!

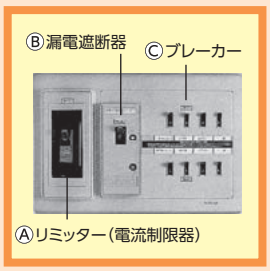
台風や地震などで切れた電線には絶対に触れないで九州電力送配電へご連絡ください。



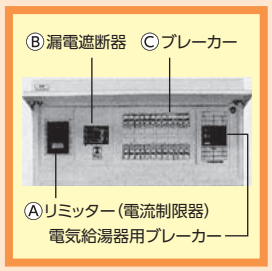
停電の時のチェックポイント!

停電の時は慌てずに、
次の手順で点検しましょう。

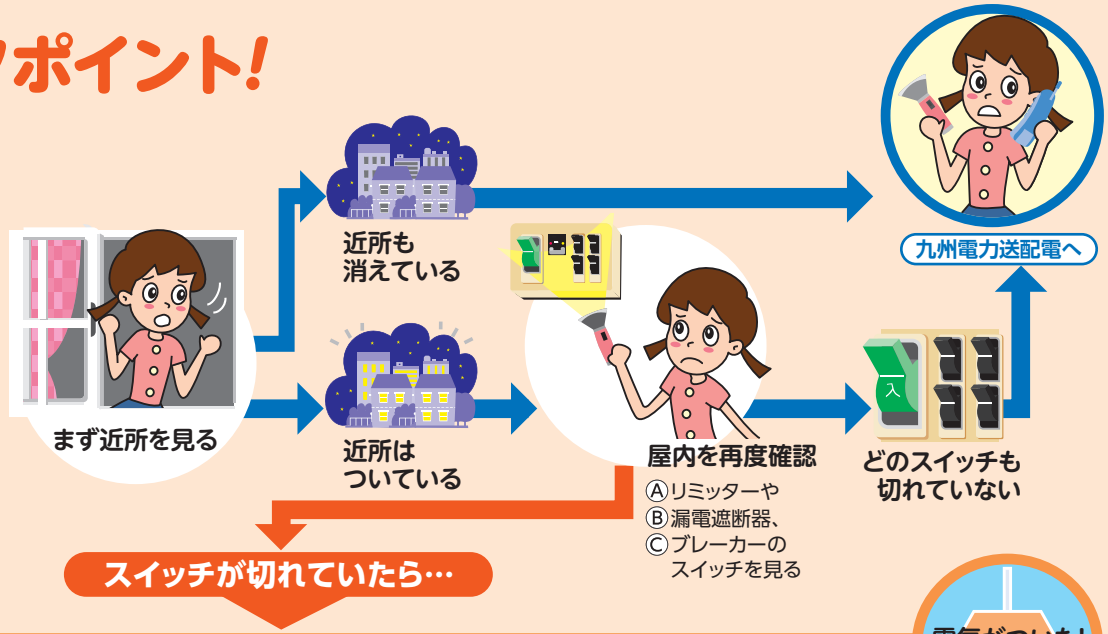
分電盤



電気給湯器用ブレーカー有の分電盤



Ⓐリミッターは九州電力送配電設備
Ⓑ漏電遮断器 Ⓒブレーカーはお客さま設備



Ⓐリミッターが切れている
〈主な原因〉
●電気の使い過ぎ

操 作
ご使用中の電気機器の数を減らし、Ⓐリミッターを「入」にする。

ひんぱんにリミッターが落ちるときは、ご契約アンペアを上げることをおすすめします。
ご契約アンペアの変更を希望されるときは、ご契約の小売電気事業者へお申し込みください。

Ⓑ漏電遮断器が切れている
〈主な原因〉
●漏電
●雷などのショック

操作1
Ⓒブレーカーをすべて「切」にする。

操作2
Ⓑ漏電遮断器のつまみを一度完全に下げてから上に上げる。
注:漏電遮断器に復帰ボタン(黄色又は白色)がある場合は、ボタンを押してから上に上げる。

操作3
Ⓒブレーカーを1つずつ「入」にする。
漏電遮断器が切れたら、そのブレーカーを「切」のまま、操作2から繰り返す。

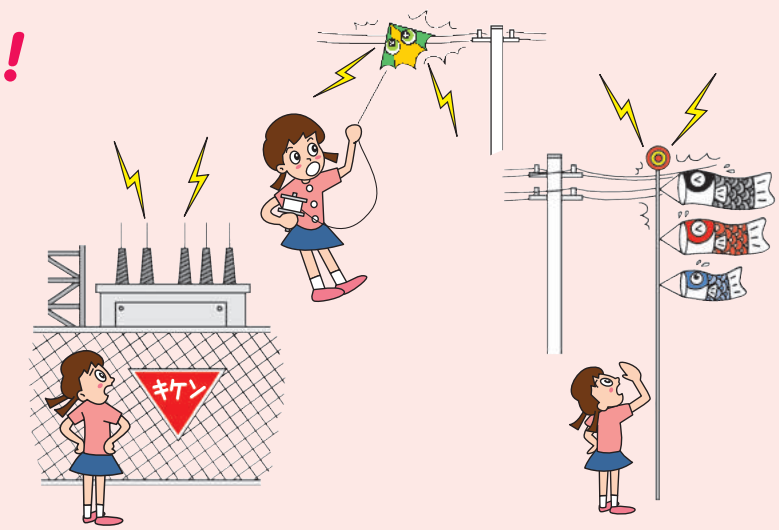
漏電遮断器が切れる原因のブレーカーが分かったら、そのブレーカーについては、「Ⓒブレーカーが切れている」の操作を行ってください。

Ⓒブレーカーが切れている
〈主な原因〉
●部屋の電気の使い過ぎ
●電気機器や屋内配線の不良

操 作
使用中の電気機器のプラグをコンセントから外し、Ⓒブレーカーを「入」にする。

- ブレーカーが再度切れた場合は、屋内配線の不良が考えられます。
  保守センター又は電気工事店へご相談ください。
- ブレーカーを「入」にして、コンセントから外した電気機器を1つずつコンセントへ再接続します。
  再接続してブレーカーが切れた場合、その電気機器の故障か、部屋の電気の使い過ぎが考えられます。

屋外で遊ぶ時のチェックポイント!

屋外で遊ぶ時はこんなことに気を付けましょう。

- ⚠ 電線近くでの釣りやセミ取りなどは、やめましょう。
- ⚠ こいのぼりやアンテナは電線に触れないところに立てましょう。
- ⚠ 発電所や変電所の構内には、絶対に入らないようにしましょう。
- ⚠ たこや模型飛行機は電線のない広いところであげましょう。
- ⚠ 電柱や鉄塔には絶対にのぼらないようにしましょう。